

舌診入門③

漢方的にみた舌診の意義

三谷和男 京都府立医科大学東洋医学講座

はじめに

舌所見は、症状の進退・病態の虚实・陰陽、あるいは気血の状態・病邪の深淺などを反映するものとして、重要な診断方法です。しかし実際の臨床では、疾病が重いにもかかわらず舌所見には変化がなかったり、健康な人であっても異常な舌所見が表れることもありますので、舌所見のみによって病態を把握することは危険なことです。病歴・自覚症状・臨床検査所見など、総合的に考えることが大切です。

また舌面をいくつかの部分に分けて、臓腑との関連を観察します。この分け方には学説によって多少の違いがありますが、一般的に舌根は腎に属し、舌中は脾胃に属し、舌尖は心に属し、舌辺は肝・胆に属す、と考えられています。舌の部位によって臓腑の虚实を知る方法は、診断上おおいに参考にはなりませんが、あまりに機械的にとらえると誤診のもとになるでしょう。

舌診のみかた

舌所見は、舌質と舌苔の2つに分けて観察します。舌質は色調・光沢・形状・運動などを観察し、舌苔は色調・厚薄・潤燥などを見ます。舌所見を正しく得るためには、明るい太陽光線のもとで観察することが大切です。光線が暗いと十分に観察できません。また食物や薬物で舌苔が着色されている場合がありますから、着色された苔色*を誤認しないことも大切です。コーヒー・お茶・煙草などは苔を黄褐色に染めますし、卵黄・ミカンなどは黄色に染めます。また熱い粥など

を食べた直後の舌は深紅色を呈しますので、舌所見をみる場合、少なくとも食後1時間くらい経ってからがよいでしょう。

舌を出すときは、大きく口を開いて、ゆっくりと、力を入れないで出すことが大切です。舌に力を入れると、充血して舌色が濃くなります。舌所見の観察で最も大切なことは、健康なときの舌所見と比較することです。比較のなかで現在の病態を正しく把握できる、と考えています。

舌の形態

舌質が腫大*しているか羸瘦*しているか、を観察することは、薬方を決定する上で参考になります。

◆種大

舌質が腫大し、舌の辺縁に凹凸がある場合(歯痕と呼ばれる)、気虚ないし水滯(水毒)と考えられます。気虚に対しては人參・甘草・黄耆などが君薬になり、水滯(水毒)に対しては、茯苓・朮・沢瀉・猪苓・木通・車前子・滑石などを用います。舌質が腫大して色が淡白紅色の場合は、「気血トモニ虚ス」といわれる状態で、補血剤(当歸・熟地黄・阿膠・芍薬)が必要で

舌の腫大は、粘液水腫・慢性腎炎・肺気腫のほか、右室不全・肝硬変・悪性腫瘍の場合にもみられます。後者の場合には、赤紫色を呈し消炎・清熱剤(石膏・知母・黄芩・黄連・大黃・茵陳蒿・黄柏・山梔子・竜胆・決明子)を用います。舌質の腫大は結合組織の増殖、組織間の水腫、および血管系・リンパ管系の循環障害などが関与しています。

舌質の腫大をもたらす疾病には、内分泌疾患として甲状腺機能低下症・クレチン病・末端肥大症、代謝性疾患として原発性アミロイドーシスなどがあります。

◆羸瘦

舌の羸瘦は、舌粘膜および舌組織の萎縮あるいは脱水状態、消耗性疾患においてみられるので、漢方的には舌色が深紅色であれば「熱盛ニヨル津液不足*」として清熱剤が用いられます。こうした舌所見は急性熱性疾患の後期にみられます。他方「陰虚シテ火盛ン*」といわれるように、老人の慢性消耗性疾患においても観察されます。この場合には、生地黄・玄参・麦門冬・天門冬・鼈甲・亀板・枸杞子・知母などの滋陰剤が用いられます。舌色が淡白紅色では「血虚*」として前述の補血剤が用いられます。

◆鏡面舌

舌面が光沢があり、舌苔もなく、鏡面のように平滑な舌は「鏡面舌*」と呼ばれますが、糸状乳頭が萎縮・消失した状態で、舌細胞の新陳代謝機能も低下しているわけです。重症の鉄欠乏性貧血症・悪性貧血・ペラグラなどにみられますが「血虚」として補血剤とともに、循環を改善する川芎・赤芍薬・延胡索・桃仁・紅花・牛膝などを用います。また滋陰剤の必要なこともあります。

◆イチゴ状舌

また猩紅熱のときにみられるイチゴ状舌は、茸状乳頭の増殖、肥大によって形成されます。漢方的にはこうした舌所見は「紅点」と呼ばれ、舌尖および舌辺部に多く、急性熱性疾患としては陽明病期、あるいは発疹を伴う疾病のときにしばしばみられます。慢性疾患としては、不眠・便秘、あるいは精神的緊張が持続している状態においても観察されます。柴胡剤の適応症と考えています。

◆亀裂舌

舌に多数の人文字様の亀裂がみられる場合があります。こうした亀裂舌*は、急性熱性疾患の脱水状態でも認められますが、慢性疾患においては、舌粘膜の萎縮によるものと考えます。慢性的な舌炎においてもよくみられる所見です。一方、消耗性疾患においても現

れるわけですが、漢方的には、気の症候（気証）と考えています。桂枝・厚朴・紫蘇葉・荊芥・防風などが主治すると考えています。

◆地図状舌

「地図状舌*」とは、帯白色の境界のはっきりした斑紋をつくり、不定型な地図状の白苔が散在したものです。苔のない部分には上皮細胞の増殖を認めます。この斑紋は辺縁が拡がり、中心部は赤く、平滑になります。こうした地図状の模様は、毎日のように変化します。糸状乳頭の消失と再生が著しく、4歳以下の乳児に最も多くみられます。地図状舌は治療を要しない、と一般にいられていますが、その原因として心理学的因子が認められることがわかってきています。つまり、精神的に安定しているときよりも、情緒不安定なときに、こうした所見の増悪することが明らかになっていきます。地図状舌をもつ乳児では、脂漏性皮膚炎と喘息性気管支炎を併発する比率が有意に高いことも明らかになっています。このことから「陰陽トモニ虚ス」あるいは「肝気盛ントス」という立場で薬方を与えることが必要です。

*

本文中に「*」を付けた舌については、次回に写真を提示する予定です。

